

スクールカウンセラーだより 5

子ども達は、小さい時期は大人の手で、守られながら様々な経験を積み、ときには失敗することがあっても、褒められながら自信を高めていきます。そして、だんだん自分で考えて行動するようになり自立していきます。そこで大切なことは自分でできたという経験だと思っています。今回は、自立に向かってを考えてみます。

できればお小遣い帳をつけさせましょう。

お金の管理は大人になるための大切なスキルです。低学年でもお小遣い制度にし、計画的に使っていくことを身につけさせたいと思います。その為、お小遣い帳をつけさせたいと思います。もらってすぐにお小遣いを使ったら我慢しなければならない事を学びます。もし、どうしても必要なことでお小遣いが足りなくなったら、しっかりとその理由を言って前借りしなければなりません。そして、新たにもらうお小遣いのためにはお手伝いをしなければなりません。

また、貯金をして、自分の好きなことに使うということも学べます。1日の終わりや一週間のまとめとして一緒にお小遣いの流れを考えることで計画性も少しずつ身につけていくかもしれません。



お買い物はどんどんさせましょう。

子どもたちにとって、年齢相応の経験がないと、「みんなはできるのに僕はやったことがない」ということで不安が大きくなってきます。少し難しいかなと思えるような内容でも、サポートしながらどんどんチャレンジさせたいです。失敗してもチャレンジできたことを褒めましょう。

特に買い物は、何処で買うかなどの見通しを持って行動することや、自分で考えて買うものを選んだり、レジなどでいろいろな人と出会いお話をしたりしなければなりません。様々なスキルの向上につながります。お手伝いとしての買い物、また、お出かけなどで決められた少額のお小遣いで自分の好きな物を買うなど、積極的にやらせたい内容ですね。



自分の洋服は自分で用意させたいですね。

次の日に着る洋服は自分で用意させたいです。できれば前日のうちに枕元に用意させたいです。自分の身だしなみを意識させるということは、他の人に不快感を与えない、清潔感を意識させることにもつながります。また、自分に似合うかどうかという事を考えることで、自分のことを考えることにもつながります。鏡を見ることも大切なことです。

思春期は、「自分はどんな人なのかな?」「周りにはどう思われているのかな?」と考える時期で、自分への興味が大きくなる時期です。そこまでに自分の事を考え、どうしたら良いのか、何を選んだら良いのかを意識する機会を作っていくと良いかなと思います。



テストは加点しながら、次の意欲につなげましょう。

落ち着きがない子、忘れやすい子は一生懸命にテストに取り組んでも、名前を書き忘れたり、問題を最後まで読まないで答えたり、単位を書き忘れたりなど、肝心なときに失敗し、本当の自分の力をうまく出せないことで自信を失ってしまいがちです。失敗が多いと勉強への意欲も低くなってしまふ事が多いです。テストを返されたときもため息が出てしまいがちです。



失敗したという思いから、テストをくしゃくしゃにして持って帰っても怒らないことが大切です。

励ましながら「こう思ったんだね。」「惜しかったね。」などと声をかけてあげ、加点しながら振り返りましょう。そうすれば、自分のくやしさをわかってくれたという思いとともに、次は頑張ろうという意欲につながっていくと思います。

好きなことは大切にしていあげ、それを通して世界を拓きたいです。

虫博士、電車博士など、子どもたちは好きなことには夢中になります。あまり夢中になりすぎると、親としては心配になることも多いですが、そこを使って自信につなげたいですね。

今の子どもは万遍なくこなせることを要求されることが多いようですが、「広く浅く」よりも「一点を極める」という発想も大切だと思います。そこを極めることで自信につながり、新しい世界が広がってくるという発想の転換も必要かもしれません。また、好きなことを活かすためには、何をしなければならないかなと考えさせていながら社会性を高めていくこともできますね。



子どもの得意なことを活かした勉強方法を考えたいです。

子どもにとっても、得意な勉強方法、苦手な勉強方法があると思います。例えば、物語の理解を考えたとき、普段から本を読むことが好きな子は、本の中の文章を手がかりにして考えていくことが得意かもしれません。また、本を読むのが苦手だけど絵を描くのが好きな子は、絵にしてみると意外と内容が入りやすい子もいます。

頑張っても10分しか集中できない子に30分かかかるような課題は大変です。一度に30分を求めないで、10分やったら、少し身体を動かしてみると気分転換が図れ、もう一度課題に戻れることもあります。

書き取りの練習は落ち着きのない子にとっては苦しい課題ですが、「鉛筆の芯がなくなるまで何文字書けるかな？」というように、学習のモチベーションを変えてみると結構頑張れる子もいます。また、同じ問題プリントを繰り返し行いながら、正答の数をグラフにしていっていった子もいました（同じ問題プリントですから、必ず正答の数は増えていきますね）。

勉強方法には様々な方法があります。自分に合った方法を探せることが大切かなと思います。結果や伸びを見えるようにしてあげるとモチベーションは高まるかもしれませんね。



今回は自立と言うことを中心に考えてみました。いろいろチャレンジさせてみることで自信につながってくると思います。当然失敗もします。その中で、自分はどんなタイプなのかを考える事が思春期の準備につながってくると思います。そこで大切になるのは見守ってあげるといふことかもしれませんね。